

vRealize Automation 8.0 の移行評価の実行

2019 年 10 月 31 日
vRealize Automation 8.0



vmware®

最新の技術ドキュメントは、VMware の Web サイト (<https://docs.vmware.com/jp/>) でご確認ください。このドキュメントに関するご意見およびご感想は、docfeedback@vmware.com までお送りください。

VMware, Inc.
3401 Hillview Ave.
Palo Alto, CA 94304
www.vmware.com

ヴァイエムウェア株式会社
105-0013 東京都港区浜松町 1-30-5
浜松町スクエア 13F
www.vmware.com/jp

Copyright © 2019 VMware, Inc. All rights reserved. [著作権および商標情報](#)。

目次

1	vRealize Automation 8 への移行	4
	vRealize Automation 8.0 への移行に関する考慮事項	4
	システム オブジェクトの変換	4
	vRealize Automation 8.0 の拡張性	6
2	移行評価の実行	9
	単一の vRealize Automation インスタンスでの移行評価の実行	9
	評価結果の表示	11
	ビジネス グループのトラブルシューティング	11

vRealize Automation 8 への移行

移行前の vRealize Automation 7.5 または 7.6 の環境における移行準備状況を確認するには、移行評価を実行する必要があります。

移行によって、すべてのコンテンツおよび構成データが現在の vRealize Automation 7.5 または 7.6 ソース環境から vRealize Automation 8.0 のターゲット展開環境に移動します。vRealize Automation 7.5 または 7.6 から vRealize Automation 8.0 に移行する前に、vRealize Automation 移行前の環境および組み込みの vRealize Orchestrator インスタンスの移行評価を実行します。移行評価では、移行前の環境の移行準備状況が確認され、準備ができていないコンポーネントと依存関係が通知されます。

vRealize Automation 7.5 または 7.6 から 8 に移行する場合、いくつかの環境コンポーネントが新しい 8 形式に変換されます。これらのオブジェクトの変換の詳細については、[vRealize Automation 8 への移行に関する考慮事項](#)を参照してください。

注： 移行機能は、vRealize Automation 8.0 では使用できませんが、vRealize Automation 8.1 リリースでは使用可能になる予定です。vRealize Automation 8.0 では、移行元の環境でのみ移行評価を実行できます。

この章には、次のトピックが含まれています。

- [vRealize Automation 8.0 への移行に関する考慮事項](#)

vRealize Automation 8.0 への移行に関する考慮事項

vRealize Automation 8.0 では、移行中、および移行後にさまざまな機能が変更されます。

展開の移行を計画する前に、vRealize Automation 8.0 で導入される変更を確認する必要があります。

システム オブジェクトの変換

vRealize Automation 8.0 に移行する場合、システム オブジェクトは以前の移行パスとは異なる方法で変換されます。

移行後、システム オブジェクトの名前の指定方法と保存方法が異なる場合があります。次のシステム オブジェクトは、vRealize Automation 8.0 への移行中に新しい形式に変換されます。

- ブループリント
- エンドポイント

ブループリント オブジェクトの変換

vRealize Automation 7.5 または 7.6 から 8.0 に移行する場合、ブループリント オブジェクト タイプは次のように移行されます。

表 1-1. ブループリント タイプ

タイプ	vRealize Automation 7.5 または 7.6	vRealize Automation 8.0
vSphere (vCenter Server) マシン	Infrastructure.CatalogItem.Machine.Virtual.vSphere	Cloud.vSphere.Machine
AWS	Infrastructure.CatalogItem.Machine.Cloud.AmazonEC2	Cloud.AWS.EC2.Instance
Azure マシン		Cloud.Azure.Machine
汎用仮想マシン	Infrastructure.CatalogItem.Machine.Virtual.Generic	Cloud.Machine
オンデマンドのロード バランサ (NSX)	Infrastructure.Network.LoadBalancer.NSX.OnDemand	Cloud.NSX.LoadBalancer
オンデマンド ルーティング ネットワーク (NSX)	Infrastructure.Network.Network.NSX.OnDemand.Routed	Cloud.NSX.Network
NSX-T のオンデマンド ルーティング ネットワーク	Infrastructure.Network.Network.NSXT.OnDemand.Routed	Cloud.NSX.Network
NSX-T のオンデマンド NAT ネットワーク	Infrastructure.Network.Network.NSXT.OnDemand.NAT	Cloud.NSX.Network
既存のネットワーク	Infrastructure.Network.Network.Existing	Cloud.vSphere.Network
オンデマンド プライベート ネットワーク (NSX)	Infrastructure.Network.Network.NSX.OnDemand.Private	Cloud.NSX.Network
Puppet	ConfigManagement.Puppet	Cloud.Puppet
Ansible	ConfigManagement.Ansible	Cloud.Ansible
注： vRealize Automation 7.5 および 7.6 は Ansible Tower をサポートしていますが、vRealize Automation 8.0 は Ansible のみをサポートしています。		

エンドポイントの変換

vRealize Automation 7.5 または 7.6 を 8.0 に移行する場合、エンドポイントは次のように移行されます。

表 1-2. エンドポイント

エンドポイント	エンドポイント
Azure	クラウド アカウントとして追加されました。
Puppet	統合として追加されました。
Ansible	統合として追加されました。

サポート対象外のエンドポイント

vRealize Automation 8.0 では、以下はサポートされていません。

- OpenStack
- vCloud Air
- vCloud Director
- vROps
- プロキシ
- NetApp ONTAP
- Hyper-V (SCVMM)
- KVM (RHEV)
- VCH エンドポイント

vRealize Automation 8.0 の拡張性

vRealize Automation 8.0 に移行する場合、拡張性機能は vRealize Automation Cloud Assembly サービスでホストされ、イベント ブローカによって管理されます。

既存の拡張性を vRealize Automation 8.0 に移行できます。移行前の環境によっては、vRealize Automation 8.0 で拡張性を最適化するには、既存のワークフローおよびアクション コードの変更が必要になる場合があります。変更と新機能は次のとおりです。

- vRealize Orchestrator プラグインのサポート
- Postgres および Microsoft SQL Server データベースへのアクセス
- vRealize Automation Cloud Assembly で使用するためのワークフローまたはアクション コードの再書き込み
- vRealize Automation Cloud Assembly でのサブスクリプションの使用

vRealize Automation 8.0 での vRealize Orchestrator プラグイン

vRealize Automation では、いくつかの vRealize Orchestrator プラグインはサポートされていません。

vRealize Automation では、今後以下の vRealize Orchestrator プラグインをサポートしません。

- vRealize Automation CAFE プラグイン
- vRealize Automation .NET プラグイン
- vRealize Automation REST プラグイン

新しい vRealize Automation 8.0 API インターフェイスを使用するには、vRealize Orchestrator のすべてのカスタム コンテンツを書き換える必要があります。REST プラグインを使用した vRealize Automation への API 呼び出しに依存する実装は書き換える必要があります。

リファクタリングの労力を削減する必要があるワークフローの記述については、[vRealize Automation Cloud Assembly のワークフローとアクション コードの記述](#)を参照してください。

vRealize Automation 8.0 での Postgres および Microsoft SQL Server データベースへのアクセス

vRealize Automation 8.0 では、Postgres および Microsoft SQL Server データベースへのアクセスはサポートされていません。

vRealize Automation 8.0 は、Postgres データベースまたは Microsoft SQL Server データベースへのアクセスをサポートしていません。移行またはアップグレード中の問題を最小限に抑えるには、サポートされている API インターフェイスを使用します。

注： vRealize Automation バージョン間の移行時に、直接データベース クエリを修正するためのガイダンスはありません。

vRealize Automation Cloud Assembly のワークフローとアクション コードの記述

これらのベスト プラクティスを使用すると、既存の拡張性コードとワークフローを記述および変更して、vRealize Automation Cloud Assembly と簡単に連携できます。

イベント ブローカからのペイロードの使用

vRealize Automation Cloud Assembly と連携するためにコンテンツを記述またはコーディングする場合は、vRealize Automation を呼び出して情報を取得するのではなく、イベント ブローカ ペイロードで提供されているコンテンツを使用します。ワークフローに渡されたペイロードを無視して、vRealize Automation から同じ情報をクエリするのが一般的な方法です。ただし、vRealize Automation Cloud Assembly の場合は、vRealize Orchestrator ワークフローをサブスクライブして、その状態に必要なすべてのワークフローを呼び出します。

Need Example Code for workflow parsing

その場合、更新が親ワークフローにのみ必要になるため、必要なリファクタリングの量が減少します。

vRealize Automation プラグイン オブジェクトをサブワークフローまたはアクションに渡すことはできません

vRealize Automation プラグイン オブジェクトを vRealize Automation プラグインを呼び出していない要素に渡すことはできません。代わりに、要素が実行に必要な特定の情報を渡します。たとえば、仮想マシン名のみが必要なアクションに仮想マシン オブジェクトを渡すのではなく、仮想マシン名を文字列として渡します。

vRealize Automation Cloud Assembly でのレガシー拡張性の使用

イベント ブローカを使用して、vRealize Automation Cloud Assembly でレガシー拡張性を使用できます。

vRealize Automation 7.5 でのイベント ブローカの導入により、ワークフロー スタブは使用されなくなりました。vRealize Automation Cloud Assembly では、イベント ブローカ ベースの拡張性を使用して、vRealize Automation のバージョン間を移動するときに必要なリファクタリングを削減します。

vRealize Automation Cloud Assembly でのサブスクリプションの使用

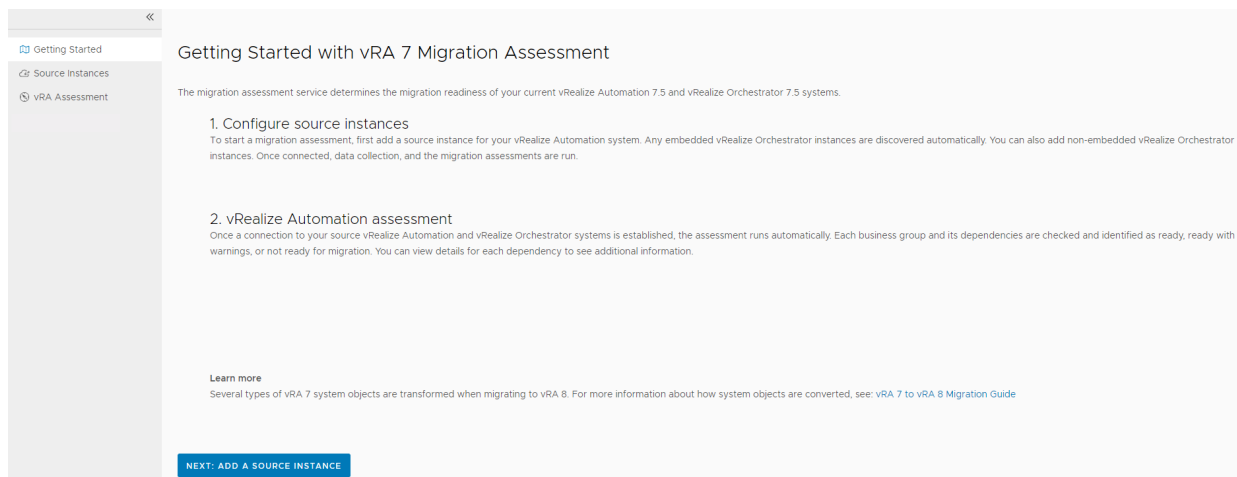
vRealize Automation Cloud Assembly で、移行済みの vRealize Automation 7.5 または 7.6 の拡張性を使用する場合は、次のサブスクリプションを適宜使用してください。

表 1-3. vRealize Automation Cloud Assembly 内のサブスクリプション

サブスクリプション	用途
ブループリント コンポーネントの完了	必要に応じて使用します。
ブループリント コンポーネントの申請	必要に応じて使用します。
ブループリント構成	必要に応じて使用します。
ブループリント申請の完了	必要に応じて使用します。
ブループリントの申請	必要に応じて使用します。
ビジネス グループ構成	必要に応じて使用します。
カタログ申請の完了	必要に応じて使用します。
カタログ申請の受信	必要に応じて使用します。
コンポーネント アクションの完了	必要に応じて使用します。
コンポーネント アクションの申請	必要に応じて使用します。
展開アクションの完了	必要に応じて使用します。
展開アクションの完了	必要に応じて使用します。
エンドポイント アクション	制限使用
EventLog デフォルト イベント	制限使用
インフラストラクチャ エンドポイントのテスト接続	使用しません。
IP アドレス管理の IP アドレス ライフサイクル イベントの完了	制限使用
マシンのライフサイクル	制限使用
マシン プロビジョニング	以下でのみ使用 : <ul style="list-style-type: none"> ■ BuildingMachine ■ MachineProvisioned ■ 破棄状態
Orchestrator サーバ構成	使用しません。
Orchestrator サーバ構成 (XaaS) - 廃止	使用しません。
事後承認	必要に応じて使用します。
事前承認	必要に応じて使用します。
リソース回収完了イベント	使用しません。

移行評価の実行

既存の vRealize Automation 7.5 または 7.6 の環境で移行評価を実行して、移行準備を決定できます。実際の移行は、vRealize Automation 8.1 まで、実行できません。



vRealize Automation の移行前の環境の移行準備を決定するために、移行評価を実行できます。移行評価には、vRealize Automation ソース インスタンスの構成と vRealize Automation インスタンスの評価が含まれます。

インスタンスが構成されると、vRealize Automation 評価が自動的に実行されます。結果と依存関係の詳細は、[vRA 評価] 画面で確認できます。

この章には、次のトピックが含まれています。

- [単一の vRealize Automation インスタンスでの移行評価の実行](#)
- [評価結果の表示](#)

単一の vRealize Automation インスタンスでの移行評価の実行

移行評価機能を使用すると、単一の vRealize Automation 7.5 または 7.6 インスタンスで移行評価を実行し、移行の準備状況を確認できます。

移行評価では、単一の vRealize Automation の移行前の環境を確認し、移行で継承される部分を特定します。この評価を確認することで、移行前の環境内で正しく設定されていないアイテムや、vRealize Automation 8.0 への移行準備ができていないアイテムを修正できます。

前提条件

vRealize Automation ソース インスタンスのバックアップを作成します。

手順

- 1 [ソース インスタンス] 画面で、[ソース アカウントの追加] をクリックします。
- 2 移行前の環境の認証情報を入力します。

注： [ホスト名] テキスト ボックスにソースの IP アドレスを指定する必要があります。例：test-n-88-087.test.vmware.com

- 3 [検証して保存] をクリックし、移行に使用できるすべてのテナントを検証して識別します。

注： 使用可能なすべてのテナントを識別するには、移行前の環境のシステム管理者とパスワードを指定する必要があります。

- 4 [これらのテナントからの移行を許可] ボックスで、vRealize Automation 8.0 に移行するテナントを切り替えて選択できます。

- 5 オプション。組み込みの vRealize Orchestrator インスタンスで評価を実行するには、[組み込み vRealize Orchestrator の評価を有効にする] フィールドを選択します。

[vRO 評価] 画面には、vRealize Orchestrator 評価の詳細と依存関係が表示されます。

- 6 [オプション:] 組み込みの vRealize Orchestrator インスタンスで移行評価を実行するには、[組み込み vRealize Orchestrator の評価を有効にする] を選択します。評価結果は vRealize Orchestrator で表示できます。
- 7 [次: 評価] をクリックして、選択したソース テナントの移行評価を完了します。

評価結果の表示

vRA インスタンスで移行評価を実行した後、結果を表示できます。

[vRA 評価]

[vRA 評価] 画面には、vRealize Automation インスタンスの結果が表示されます。各ビジネス グループおよびその依存関係が確認され、移行に対して [準備完了]、[準備完了 (警告あり)]、または [準備ができていません] として識別されます。各依存関係の詳細を表示して、追加情報を確認できます。ビジネス グループを変更した後、[更新] を選択して、そのビジネス グループの新しいステータスを表示します。

[vRO 評価]

[vRO 評価] 画面には、組み込みの vRealize Orchestrator インスタンスの結果が表示されます。パッケージごとに移行準備が確認されます。パッケージごとにすべての問題と修正を表示できます。

ビジネス グループのトラブルシューティング

[vRA 評価] 画面で、一部のビジネス グループについて「準備ができていません」または「準備完了 (警告あり)」と表示される場合があります。これらのビジネス グループに対してトラブルシューティングを行って準備を完了する場合は、以下のガイドラインを活用してください。

vRA 評価

vRA の移行評価の結果は、[vRA 評価] 画面に表示されます。ビジネス グループが「準備ができていません」または「準備完了 (警告あり)」と表示される場合は、修正手順を実行して、ビジネス グループの移行を準備する必要があります。確認が必要なコンポーネントを特定するには、ビジネス グループの詳細を開きます。準備ができていないコンポーネントとその説明が、ビジネス グループの詳細画面に表示されます。通常、修正手順は説明に含まれています。修正手順を実行した後、[vRA 評価] 画面に戻り、[更新] をクリックします。問題が修正されると、そのビジネス グループは「準備完了」と表示されます。

Object level details

Cause (in many cases remedy)

Test	Status	Description
Software Component	Not Ready	Software Component: Not supported
Software Component	Not Ready	Software Component: Not supported
Software Component	Not Ready	Software Component: Not supported
Software Component	Not Ready	Software Component: Not supported
Software Component	Not Ready	Software Component: Not supported
Software Component	Not Ready	Software Component: Not supported

Specific feature are blocking migration

vRO 評価

vRO 移行評価の結果は、[vRO 評価] 画面に表示されます。ビジネス グループが「準備ができていません」または「準備完了 (警告あり)」と表示される場合は、修正手順を実行して、ビジネス グループの移行を準備する必要があります。確認が必要なワークフローやコードを特定するには、ビジネス グループの詳細を開きます。詳細ビューで、確認が必要なワークフローとコード行を特定できます。ワークフローを確認し、強調表示されたコード行を修正してビジネス グループの移行を準備します。修正手順を実行した後、[vRO 評価] 画面に戻り、[更新] をクリックします。問題が修正されると、そのビジネス グループは「準備完了」と表示されます。

The screenshot shows the vRealize Automation Migration Assessment interface. The top navigation bar includes the VMware logo and the text 'vRealize Automation Migration Assessment'. The user is logged in as 'Fritz Arbeiter' from 'DEFAULT-ORG'. The main content area displays the 'VRO' business group details. The status is 'Not Ready' (indicated by a red icon) and the last update was on 'Aug 6, 2019, 2:54:19 PM'. A table lists the workflows and their status:

Workflows Name	Status	Issues
> Send notification to mailing list	Ready	
> Remove Connect actions from all entitl...	Not Ready	vRealize Automation Plugins No Longer Supported with vRealize Automation 8 vRealize Automation Plugins No Longer Supported with vRealize Automation 8 vRealize Automation Plugins No Longer Supported with vRealize Automation 8 var entitlementHost = vCACCAFEEntitiesFinder.getHostForEntity(entitlement); vCACCAFEEntityHelper.removeElementFromList(entitlement, 'getEntitledResource entitlements = vCACCAFEEntitiesFinder.findEntitlements(host);
> Check Serial for Zone	Ready	
> Invoke a PowerShell script	Ready	
> Send General Email	Ready	

Annotations in the image point to the following elements:

- Workflow name**: Points to the 'Remove Connect actions from all entitl...' workflow name.
- Types of issues**: Points to the 'Not Ready' status icon.
- Code lines needing rework**: Points to the code snippets in the 'Issues' column for the 'Remove Connect actions from all entitl...' workflow.